

週日の説教

金 大烈 神父 2011年3月9日(水)

《四旬節の真の意味》

ある物語から始めます。アメリカ大陸に、ある白人の教師がいました。この教師は原住民のインディアンの居住地に赴任しました。学校で子供達に教え始めましたが、ある時、試験の日がやってきました。試験の日に先生は、インディアンの子供達にこのように話しました。「今日の試験は結構難しいので、良く考えてちゃんと受けなさい。不正の行為は許されません」と。この話を聞いた子供達は直ぐに立ち上がって、自分たちが使っているその机を部屋の中央に全部集めました。そして、集められた机の周りに子供達も全員集まって座ります。その様子を見た先生は、どうしたのかとおかしく思っ、これから試験だと言ったのに、なぜみんな頭を寄せて試験を受けようとするのか、と腹をたてました。そうすると子供達が逆に、先生が何でそんな顔をしているのかと不思議に思って「先生、今まで私達は難しいことが起こった時には、一緒に力を合わせて解決しなさいと言われたのですが…」と言う話です。

私達にも何かを伝えている内容ではありませんか。この世の中をよく考えてみますと、本当に自分のペースで生きている人が殆どで、謙ることも失っています。自分だけお腹いっぱい、満たされているのならばそれでいい。これが今、全世界どこに行ってもよくみられる光景です。

あのマザー・テレサがおっしゃった話があります。「わたしは、あなたが出来ることは出来ません。しかし、わたしが出来ることを、あなたが出来ません。一人一人の力では足りないのが自然かもしれません。けれども、あなたと私が力を合わせれば偉大なことができるでしょう。それを分かりながらも私達は、一つになって、お互いに力を合わせて取り組もうとしないのです。」それが出来ていないから、この世の中は段々悪くなっていくのではないのでしょうか。

四旬節の意味は色々あります。皆様はどのような気持ちで、この四旬節を過ごそうと思っておられるのでしょうか。毎年、四旬節に私が皆様にお勧めする話があります。今年のこの四旬節は「和解」のために頑張っていたきたいのです。無条件に自分が間違えたと思って下さい。相手が間違えているのだと客観的に言われても、自分のせいだと思って下さい。そういう気持ちがなかったら、絶対私達は「和」を求められません。皆さんのほうが正しくても良いのです。それに固執しないようお願いします。相手に変わってほしいという望みがあるのなら、まず、自分が相手を見る目を変えて下さい。そうでなければ絶対できません。これは人類の歴史が証明していることです。

「マイペース」という言葉があります。いつも自分の立場で相手を量る。責める。こういうことがある限り、私達はイエス様のおっしゃっているその美しさを絶対得られません。皆様が正しいことはイエス様が先に分かっています。悔しく思わないで下さい。何が悔しいのでしょうか。受け取ってください。それが、この四旬節に、私が皆様に司祭の立場としてお願いしたい一つのことです。

さあ、皆様、皆様の記憶の中に残っていると思いますが、昨年私は「四旬節の真の意味は何でしょうか。四旬節という思い浮かべるものは何ですか。」と、このようなことを申し上げました。私が尋ねたことを覚えていらっしゃると思います。四旬節というと、だいたい黒いイメージの言葉を思い浮かべますよね。断食、犠牲、十字架の道、苦痛、痛み、悔い改めるとか… そういう単語ばかり考えていらっしゃるでしょう。いいえ、それは外面的なことです。真の四旬節の意味は、“なぜイエス様が十字架を負ってその死の道を歩まなければならなかったのか”、その十字架を負ったイエス様の背景になっているその愛を体験することです。暗いイメージではありません。イエス様の愛、わたしたちが「主よ、主よ」と呼ぶ、“イエス様の愛をもっと深く感じて、その中で生きようとする”のが四旬節の真の意味です。

皆様、今日の福音（マタイ 6・1-6、16-18）で、「断食するときには頭に油をつけなさい」とありましたね。これはどういう意味ですか？ もし私達が真の四旬節の意味を分かっているならば、私達の顔は輝きます。

昔、アメリカの大統領で、「人は40歳を過ぎたら自分の顔に責任をもたなければならない。」と言った大統領がいましたね。リンカーン大統領でしたか？ 40歳までは親からもらった顔で生きています。40歳になったら内面が顔に出ます。皆様、40歳を過ぎている人は自分の顔を見て下さい。その人が平安な顔をしている人か、何かで崩れている心を持っている人か、すぐ分かります。穏やかな人が欲張りか、すぐ分かります。「その顔について責任をとりなさい」という言葉は結構意味のある言葉です。皆様、この四旬節に、今まで出来なかった何かがあれば、それを手に入れられるよう、その恵の時期になるように頑張りましょう。

今日の第二朗読（2コリント 6-2）で、このような表現がありました。“恵みの時に”。暗い時ではなくて、光の時、希望の時、本当に希望が自分のものになる時、このような時に相応しい生活をしなければならないと思います。

具体的に、お勧めしたいことを申し上げます。四旬節の中で断食なさる方もいるし、色々ご自分なりに犠牲や施しについて、取り組んでいる方々もいらっしゃると思います。しかし、そういうことよりもまず、内面をきれいに清める時間を取って下さい。

そして、もう一つお願いしたいことは、平日のミサに、出来るだけ沢山与る努力をして下さい。“ミサという聖餐、この宴がどのくらい恵み” そのものであるかを実感しながらこの四旬節を過ごしましょう。そして、家でも祈る雰囲気を作って下さい。他の家族が信者でなくても、その家族に祈る姿を見せようとして下さい。必要なことです。もう一つ。マリア様に、私達の母であるお母さんに頼って下さい。毎日ロザリオを捧げて下さい。そして最後に、四旬節の間に本当によく準備をして、よく振り返ってみながら、赦しの秘跡を求めて下さい。

ありがとうございました。